



海外インターンシップ特集

日々の生活から研究まで、 海外での経験すべてが糧になる

IAESTEについて

IAESTE(イアエステ/The International Association for the Exchange of Students for Technical Experience)は、理工農薬学系の学生を対象とした海外インターンシップの仲介をしている国際団体。1948年の発祥以来、ヨーロッパを中心に活動を続けており、現在は世界約80ヶ国にある各委員会が相互に連携し、海外インターンシップの促進に貢献している。これまでに、4000社におよぶ企業の後援を軸に、約34万人の学生を相互に交換してきた。

グローバル化が急速に進行する昨今、世界で活躍できる人材に対するニーズも高まり続けている。とはいえ、海外旅行や短期留学などを通じて見える部分と、仕事のフィールドとしての海外には大きな隔たりがあり、世界で活躍できるスキルや考え方を実感できる機会はそう多くはない。そんなギャップを埋める有力な手段の一つが海外インターンシップだ。海外インターンシップに参加することで、何をできることができるのか。海外インターンシップの仲介を手掛けているIAESTE Japanの副理事長 牛山誠氏とインターンシップ担当 丹羽古那美氏に話を聞いた。

Q 海外インターンシップはどのようなプログラムがあるのでしょうか

海外インターンシップの中でもIAESTEが紹介しているのは、理系としての専門性を高められるプログラムです。日本におけるインターンシップといえは『業務体験』が多いのですが、『技術研修』に近い内容となっています。具体的には、「ドイツの家電メーカーでロボット掃除機的设计開発」、「マカオの建設コンサ

ルティング会社で構造計算」、「ブラジルの大学でプラズマに関する研究」など。地域もテーマも多岐にわたっており、派遣先は世界80カ国、民間企業だけでなく大学や研究機関も含まれます。研修期間については、夏季休暇中に8〜12週間のプログラムに参加する学生が多いですが、希望に応じて期間延長も可能です。

Q 海外インターンに参加して得られるものは

専門性や語学の面での成長はもちろんですが、言語文化、宗教が異なる人々と生活し、共に働くことで、世界で活躍するために必要な考え方や価値観を知れるのは大きな収穫です。インターンシップでの経験を通じて、勉強への取り組み姿勢が大きく変わったという学生も多いですね。現地の方や他の国から来た優秀なインターン生との交流を通じて、新たな目標ができた、学問への興味が高まったといった声をよく聞きます。その他にも、「人生で一番大変だったが、それ以上楽しく、成長できた」「勉強ばかりしてたけど、海外をこの目で見たことで視野が広がった」「日本人以上に勤

インターンシップ受け入れ先の一例

フォアベルク (家電メーカー) / ドイツ
DBA (スチール・プラスチック製造工場) / ポーランド
AIDICO (素材メーカー) / スペイン
ウェスタンジーコ (油田開発企業) / ノルウェー
乗風土木工程顧問有限公司 (建設コンサル) / マカオ
ミカエル・ピュービン研究所 (ロボティクス) / セルビア
サンパウロ州立バウリスタ大学 (プラズマ) / ブラジル
モンゴル科学技術大学 (マテリアル) / モンゴル
香港理工大学 (流体力学) / 香港
国際クリーン交通委員会 (環境系NPO) / アメリカ

勉な国民がいることを知って、強い刺激を受けた」など、インターン生は皆、様々な気付きを得たり成長して帰ってきます。学生自身も気づいていない部分で成長していることもあるでしょう。

何より、異国の地に長期間滞在して何かを一人であり遂げたという経験は、今後の人生における大きな自信につながるはずです。「海外インターンの経験に比べたら、大抵のことは何とかなる」と思えるようになりますよ(笑)。

Q 海外で仕事に挑むことの難しさはどこにありますか

仕事以前に、1カ月以上にわたる海外生活で大きなカルチャーショックを受ける方も少なくありません。交通、食事、コミュニケーションすべてが驚きと発見の連続です。そんな驚きを乗り越え、徐々に友人ができて仕事もこなせるようになってくるプロセスは貴重な

経験となるでしょう。

そして、日本人の多くが戸惑うのは、自分の意見を言うこと。外国では自分の考えを発信することが当然で、インターン生にも当然それが要求されます。言葉の壁もあるでしょうが、遠慮しては何も始まりません。少し慣れてくればわかるのですが、語学力の差はさほど重要ではないんです。大事なことは話す中身。培ってきた理系の専門性や、自身の考えがあれば、言葉は拙くてもホワイトボードなどを駆使することで何とか伝わるものです。自信を持って意見を発信してほしいですね。

あと意外と見落とされているのは、日本人が自国について語れないという点。現地で受け入れられるきっかけとして、自国の文化や歴史についての知識があることは重要です。俳句や折り紙などを教えてほしいと言われることもあります。

Q 参加条件はあるのでしょうか

参加希望者は面接と課題作文・志望理由書の提出が必要となります。選考で問われるのは「何をやりたいのか」という本人の意思です。そのやりたいことをもとに、インターンシップ受け入れ先のオファーを探してマッチングを行っています。応募者のスキルや知識に応じてプログラムを紹介するので、学部2年生からドクターまでどなたでもエントリーを歓迎します。語学力についてはTOEIC600点以上(TOEFL iBT[®]、IELTS 5.5)が応募条件となっています。渡航費用については、基本的には航空券の料金が

主で、渡航エリアにもよりますが20万円程度となります。予算的に難しいという方は、外部の支援プログラム(トビタテなど)もあるので活用してください。現地の滞在費は受け入れ先が負担してくれるので宿代などは不要です。

Q 海外インターンに関心を持っている読者に向けてメッセージをお願いします

いくら情報を集めても実際に体験しなければわからないことは沢山あります。世界で求められる人材はなんたるかを体験できる貴重な機会が海外インターンシップと言えるでしょう。世界を見たらうえて将来、キャリアを考えてほしいですね。海外から持ち帰った経験や自信は、一生の財産になるので、日常生活から飛び出し、一歩を踏み出してください！



profile

IAESTE Japan
副理事長 牛山 誠
インターンシップ担当 丹羽 古那美

IAESTEからのお知らせ

2016年海外インターンシップ派遣生募集は2015年8月3日開始です。募集要項、派遣生の研修報告等に関しては当協会WEBページ(www.iaeste.or.jp)をご覧ください。また、派遣生岡本知久氏による著書「チヨコレット・ストーリー」もご参考まで。

